

2014年10月12日 礼拝メッセージ

聖書：ルカの福音書 19章 1～10節

説教：急いで降りて来なさい

1 ザアカイ

1) 取税人で金持ちであった

当時、イスラエルはローマ帝国の支配下にあります。神が与えてくださった約束の地を踏みにじっている憎い敵です。けれども、ローマ帝国に税金を納めろ言われれば従わなければなりません。そのお金をだれが集めるのか。ローマ帝国の役人が直接集めるようなことはしません。現地の人を雇って集めさせます。それが取税人と呼ばれる人たちです。彼らは自分たちの敵であるローマの手先となって働き、税金を取り立てていく訳ですから、当然人々から歓迎されるはずはありません。憎まれています。ここに登場するザアカイもそのひとりで、取税人役場の責任者でもありました。彼は後で告白しておりますが、取り立てたお金の一部をピンハネして自分の財布に入れていたようです。日本語で「私腹を肥やす」と言います。今ならこんなことをすれば犯罪ですが、ローマ帝国は見て見ぬ振りです。人々はそのことも知っていますから、ますますザアカイを憎んでいたものと思われれます。

2) 木に登る

そんなやくざ者のザアカイが、イエスに興味を持ち、一目でも見てみたいと思ひ群衆の集まっている所に向かいます。ところが、行ってみると大ぜいの人ばかりで見ることができません。彼の背が低かったからだと言聖書のあります。ある研究者は、ザアカイだけが背が低かったわけではないのに、なぜ彼だけが見るができなかったのか、別の理由

があるのではないかと指摘しています。ザアカイは、イエスを見ることができるようにと群衆を押し分けて最前列へ進もうとしました。ところが、人々はザアカイを憎んでいましたから、わざと邪魔をして道をあけてくれなかった。そのように想像されます。自分はいちだけ嫌われているのかと、心に突き刺さるできごとでした。けれどもザアカイはあきらめません。すぐに機転を利かし、先回りしていちじく桑の木に登ってイエスが来るのを待つことにします。いちじく桑の写真をみると、想像以上に大きな木で、人の顔の大きさほどの葉がびっしりと茂っております。小柄なザアカイであれば、木の葉の中に自分のからだを隠すこともできます。イエスには気づかれずに見下ろすのには好都合の場所でした。

2 イエス

1) 下に立つ

しばらく待っていると、イエスが向こうから歩いてきました。周りにはたくさんの人ばかりです。イエスの頭や肩の辺りはよく見えます。ところが、ザアカイが一番見てみたいと思っていたイエスの顔がよく見えないのです。これではイエスがどんな方かはわかりません。あきらめかけました。そのとき、思いがけないことが起きました。イエスが顔を上げて、いちじく桑の葉の間に隠れていたザアカイを見つけ、声をかけてきたのです。「ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」

イエスとザアカイ位置関係をよく考えた

いと思います。イエスは神であり、この世の王である方です。その方をザアカイは上から見下ろしています。よく考えると、これとはんでもないことです。

私が会社員として働いていたときのことですが、会社のすぐ前にある建物に皇太子夫妻が訪問されるということがありました。そのとき、事前に警察から連絡があつてこんなことを言われました。「皇族が通られる時間帯には、会社の駐車場に止めてある車はすべて前を向かせて、お尻を向けないように協力してほしい。」協力ですから、従わないことも自由です。しかし、もし従わないならば世間からどんな批判が来るかわかりません。おとなしく従いました。天皇は日本の象徴ですと憲法で定められているこの時代でも、このような圧力がかかります。武士の時代なら、木に登って天皇や将軍を見下ろしたとあれば、即刻処刑されるでしょう。ましてザアカイは、神である方の頭の上にいるのですから、普通であればただでは済まされなかつたはずです。

2) 「急いで降りて来なさい」

もちろん、イエスはザアカイを叱りつけるようなことはしません。むしろ、イエスはザアカイから見下ろされるようにとわざわざいちじく桑の木の下に立ってくださったのです。王であるイエスがへりくだり、ザアカイに仕えようとされていることを現しています。

下に立たれたイエスは、上に向かってザアカイの名を呼びます。そして、「急いで降りて来なさい」と呼びかけられます。6節にももう一度、「ザアカイは急いで降りて来た」とあります。聖書は、この短い箇所でも二回も

同じことばを繰り返しています。何か理由があるはずですが、なぜ急がせるのか。なぜ降りて来るようにと言われるのか。このことは最後にまた考えたいと思います。

3) 「あなたの家に泊まることにしてあるから」(ヨシユア記2章)

イエスの言葉は続きます。「きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」もう少しわかりやすく訳し直せばこうなります。「きょう、わたしはあなたの家に泊まらなければならない。」

イエスとザアカイがやりとりをしている所はエリコと呼ばれている町でした。たまたまエリコであつたわけではありません。旧約聖書との関わりがあるように思います。かつてエリコで何があつたのかを思い起こします。ヨシユア記2章には、ヨシユアが約束の地カナンを目指していた途上で、エリコを攻め落とす場面が書かれています。ヨシユアは、エリコの町を責める前に偵察隊を送り、町の様子を探させます。偵察隊が身分を隠して宿泊したのがラハブの家でした。そのことがきっかけとなり、ラハブとその家族が救われていきました。

そのラハブのできごとからおよそ千四百年の後に、主はエリコを訪れて下さり、救いのみわざが行われていきます。ヨシユアの時、偵察隊がラハブの家に泊まり、そのことをきっかけにして救いがもたらされたように、今度はイエスご自身がザアカイの家に泊まって、ザアカイとその家族、そしてそこに集まった罪人たちが救われていったのです。

3 救い

1) 急いで降りて、喜んでイエスを迎える

さて、ザアカイは急いで木を降り、大喜びでイエスを迎えていきます。なぜ大喜びだったのでしょうか。人々はザアカイを憎み、道をあげようとはしませんでした。あいつはイスラエルを敵に売った罪人なのだと陰口を言われてきました。だれもザアカイの名を呼ぶ者はいません。

それが思いがけなく、イエスから親しく名前を呼んでいただきました。それだけでも嬉しいことでした。それだけではありません。最初に触れたように、ザアカイはイエスの顔を一目見たいと願っていました。けれども、木の上からではイエスの頭と肩しか見えません。ところが思いがけなく、イエスのご自分の顔をザアカイに向けてくださったのです。初めて見るイエスの御顔。見てすぐにわかりました。まるで、迷いだした羊を捜し続けてきた羊飼いが、いまその羊を見つけたと心から喜んでいる、そんな顔が見えました。これまで、人々はザアカイを冷たい目でしか見てくれませんでした。こんなに温かい目で自分が迎えられたのは、生まれて初めてのことでした。

そもそもザアカイがイエスに興味をもったのはなぜだったのでしょうか。彼は金持ちで裕福な暮らしをし、何不自由なく暮らしてはいました。お金目当てで近づいてくる人たちは沢山いました。でも、心から自分のことを信頼し、心と心を割って本当のことを話せる友人はだれもいません。昼間は、恐い顔をして人々から金を取り立て、冷酷な取税人を振る舞っていました。でも本当の自分はまったく別でした。人々から嫌われ憎まれていることに耐えられなくなってきました。でもどうしたらよいのかわかりません。毎日、悶々として苦しんでいました。そんなとき、イエス

の話が聞こえてきました。もしかしてイエスに出会ったなら、自分が変わることができるのではないか。確信があった訳ではありませんが、とにかく木に登ってでもイエスに会いたいと思いました。そこでイエスの御顔を見ることができたとき、ザアカイの人生は百八十度変わりました。「主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。」

いままで、何度も人をだましてきたことで心にうずきを感じていました。でも、「ごめんなさい」と言って自分の罪を告白する勇氣はありません。そんなことをしたら、もっとみじめになるばかりだと恐れていました。でもイエスに出会い、この方が自分を受け入れて下さっていることがはっきりとわかったとき、もう恐いことがなくなりました。もう恥ずかしいとは思いません。自分のしてきた罪を言い表したとき、彼は心から自由になったことを感じたはずです。

2) 私たちの代わりに木に登られる方

さて最後に考えます。イエスはなぜ、「急いで降りて来なさい」と言ったのか。聖書が、二度も同じことばを繰り返して記すのはなぜか。意味のないことばであるなら書かれるはずはありません。大きな意味があるから書くのです。

木ということがヒントになります。ザアカイの罪は赦され、彼は救われました。ではザアカイの罪はどこに行ったのでしょうか。おわかりとおおり、イエスが背負われました。そんなふうにして私たちの罪を背負われたイエスは、どこに向かわれたのでしょうか。十字架に向かわれます。

その十字架に関して、申命記21章23節にこうあります。「その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならない。木につるされた者は、神にのろわれた者だからである。」

イエスは木につるされ、神にのろわれた者となりました。木に登るのはザアカイではないのです。ザアカイの代わりにイエスが登ろうとしています。だから「急いで降りなさい」と言われたのでした。

木につるされ、のろわれた者になるはずだった私たちに、主は「急いで降りて来なさい。わたしがあなたの代わりに木に登るから」と声をかけて下さいます。その恵みを覚ええます。